

1 T_EX と文書作成

1.1 はじめに

T_EX(テフもしくはテック) は高度な組版作業を自動化します。T_EX を利用すればワープロよりも効率的に文書を作成することができます。

1.2 T_EX の利点

ワープロと違い T_EX による文書作成ではフォントのサイズやスペースのとり方などを気にする必要がありません。文書の見た目についてはすべて T_EX が面倒を見てくれます。^{*1}精緻に組版されるので印刷の仕上がりはとてもきれいです。見出しや箇条書きの連番を割り振ってくれたり、目次や索引を生成してくれたりもします。書誌情報を管理する機能もあります。

1.3 T_EX の処理

T_EX はマークアップされたテキストファイル (*.tex) をコンパイルして DVI ファイル (*.dvi) を出力します。DVI ファイルは dvipdfm というプログラムによって PDF ファイル (*.pdf) に変換されます。

T_EX では L^AT_EX(ラテフもしくはレイテック) という処理系を使用するのが一般的です。日本語の文書を作成するには日本語に対応した pL^AT_EX もしくは upL^AT_EX(Unicode に対応した pL^AT_EX) という処理系を使用します。

1.4 T_EX の導入

T_EX を使用するために必要なものは以下の 3 つです。^{*2}

T _E X ディストリビューション	T_EXLive
T _E X エディタ	L_yX
PDF ビューア	Sumatra PDF

T_EX Live には組版に必要なプログラムがすべて含まれています。L_yX は T_EX を使いやすくするためのエディタです。ワープロのようなインターフェイスで文書を作成・編集することができます。Sumatra PDF は組版処理された PDF 形式の文書を確認するために使用します。これらのインストールの詳細については [T_EXWiki](#) を参照してください。

^{*1} ユーザが文書の見た目についてやるべきことは、あらかじめ用意された文書のクラスおよびスタイルを指定することだけです。文書の見た目を独自に調整することもできますが、その必要はほとんどありません。

^{*2} T_EX Live には [T_EXworks](#) という T_EX エディタが含まれていますが T_EX のコマンドを直接記述する必要があるので初心者には不向きです。T_EXworks は PDF ビューアとして使用することもできます。

1.5 L^AT_EX の設定

L^AT_EX の設定については [L^AT_EX- T_EXWiki](#) を参照してください。

日本語の文書を作成するにはコンパイル時に文字コードに関するエラーが出ないように文書を設定する必要があります。設定方法は次のとおり。

1. L^AT_EX を起動します。
2. メニューから 文書 ▸ 設定 を選択して左のリストから"文書クラス"を選択します。
3. "文書クラス"から日本語用の文書クラス ([jsclasses](#) もしくは [BXjscls](#)) を選択します。
4. 左のリストから"言語"を選択して"文字コード"の"その他"から"日本語 (pLaTeX)(UTF-8)"を選択します。
5. 左のリストから"PDF 特性"を選択して"追加オプション"に `unicode=false` と入力します。
6. "OK"をクリックします。

L^AT_EX の基本的な使い方はヘルプのチュートリアルを参照してください。

1.6 Beamer の設定

[Beamer](#) はスライドを作成するための文書クラスです。Beamer を使用するには `dvipdfm` が正しく機能するように文書を設定する必要があります。設定方法は次のとおり。

1. L^AT_EX を起動します。
2. メニューから 文書 ▸ 設定 を選択して左のリストから"文書クラス"を選択します。
3. "文書クラス"から"Beamer"を選択して"クラスオプション"の"任意設定"に `dvipdfm` と入力します。
4. 左のリストから"LaTeX プリアンプル"を選択して以下の内容を入力します。

```
\usepackage{bxdpj-beamer}
\usepackage{pxjahyper}
```
5. "OK"をクリックします。

詳細については [今さら人に聞けない「日本語で Beamer」のキホン - Qiita](#) を参照してください。